

第2回下野市障がい者福祉計画策定委員会 議事録

日 時 令和5年10月10日(火) 午後1時30分から午後3時30分
場 所 下野市庁舎203会議室
出席者 委 員 : 別紙名簿参照
欠席者5名 阿部委員、小林委員、佐藤委員
寺内委員、野原委員
アドバイザー: 大嶋コーディネーター
コーディネーター: 下野市障がい児者相談支援センター 小川相談支援専門員
鈴木相談支援専門員
事 務 局 : 仙頭社会福祉課長、社会福祉課障がい福祉グループ 北野、増淵、上野
傍聴人 なし
審議内容 (原則として発言委員名を明記し、発言の要点のみを記載している。)

1. 開 会

社会福祉課 仙頭課長

欠席報告 阿部委員、小林委員、佐藤委員、寺内委員、野原委員

2. 委員長あいさつ

青山委員長

3. 議事

議事録署名人に鱒淵委員・井上委員を指名し了承。

(1) 第6期下野市障がい者福祉計画の実績及び評価について

(事務局)

資料1-①、1-②、1-③、1-④に基づき報告。

➤青山委員長

福祉まるごと相談窓口の設置が始まったとのことだが、現状相談などはあるのか？

➤事務局

件数については不明だが、引きこもり相談、DV相談、不登校相談、多問題家庭の相談などが来ていると聞いている。

➤青山委員長

困りごとがあったときにどこに相談していいのか迷う方もいる。その情報を周知していくことが大切である。

➤水本委員

学校教育課では、昨年特別支援ネットワーク連絡協議会を発足し、他課の方にも参加いただき協議をしている。昨年の協議会の中で、幼児期から中学校卒業まで支援を続けるためにサポートファイルかけはしを活用したらどうかという意見が出た。幼児期の保護者にかけはしを配り、学校教育に入っていく段階でもサポートセンターの相談などでかけはしを保護者の方に持ってきてもらい、小・中学校につないでいくことで支援を続けられるという意見が出ている。現在は学校教育課の方で活用できていない状況であるが、他の課の方と連携できればありがたい。

(2) 下野市地域自立支援協議会から出た意見

(事務局)

資料2に基づき報告。

(3) 第7期下野市障がい者福祉計画策定に係るアンケート結果について

(事務局)

資料3に基づき報告。

➤鱒淵委員

今回のアンケートでは障がい児の回収率が、前回第6期計画のアンケート回収率よりも下がっている。回収率が低い原因などあるか。

➤事務局

今回のアンケートは思った以上に回収率が伸びなかった。学校、幼稚園、保育園にも協力の依頼はさせてもらっていた。紙媒体だけでなくスマートフォン、パソコンなどから手軽に回答できるようなことが必要だったかもしれないが、はっきりとした原因は不明。

➤青山委員長

回収率が低いことは私も感じていたが、一般的な無作為抽出の回収率は3割とされている中で、今回はそれ以上の回答をいただいたので、十分参考になる資料としてまとまっていると思われる。前回のアンケート調査の内容を生かしつつ、増やすところもあったので、分量も多くなった。紙の方が答えやすいという人ももちろんいるが、デジタル時代であるので様々な回答方法があってもいいかもしれない。今後の課題としていただければ。

➤粥見委員

「下野市避難行動要支援者対応マニュアル」というワードが参考資料にあった。このマニュアルは何年に1度更新するなど決まり事はあるか。

➤事務局

更新の周期についての決まりごとはないが、現在のマニュアルが平成28年に作成

されたものとなっているため、実情に合わない部分がある。現在、社会福祉課、高齢福祉課で現状にあったマニュアル改定に向けて協議を進めている。同意を得られた人の要支援者名簿と個別避難計画の内容も古いことから、今後一斉調査をしつつ、マニュアルの改定も併せて進めていく。

➤野中委員

アンケート調査 P102、問 19 の「5 年後に利用したいサービス」について、学校の状況をお伝えしたい。昨年度、下野市の卒業生が 13 名いて、企業が 1 名、就労移行が 1 名、A 型が 1 名、B 型が 3 名、生活介護が 7 名、そのうち 3 名は措置延長として国分寺学園、下野市で受入れが 1 名、栃木市、茨城県で 3 名。今年度の卒業予定者が 13 名、企業予定 2 名、就労移行が 1 名、A 型が 1 名、B 型が 5 名、自立訓練が 1 名、生活介護が 3 名、うち下野市が 1 名、栃木市が 2 名となっている。生活介護希望者が増えている中、下野市で生活介護を受けることが難しい現状になっている。今回のアンケートでは 5 年後に受けたサービスで生活介護は少なかったのだが、現状のデータや在校生を見たところだと生活介護の希望が今後も増えていくと思われるため、策定委員会のメンバーは情報として知っておいてほしい。

➤粥見委員

アンケート結果を見ると、色々な情報を知らない人が多いという印象がある。かけはしも早いうちからこぼと園など療育施設に通っている方は知っているイメージがあるが、途中からの人は知らないと思われる。どのように使うのかを具体的に示す必要がある。また、アンケートを出した後に、アンケートした結果どう変わるのか、何をしてもらえるのかと当事者としては思ってしまう。

➤事務局

皆さんの生の声がアンケートに反映されていると思う。特に自由意見では、このアンケートで制度を知った、周知が足りないという意見をいただいたので、そういったところを自立支援協議会でも共有しながら、こういった取り組みをしていくのが効果的なのかを含めて取り組んでいきたい。

➤青山委員長

情報をいかに必要としている方に広めていくのかというのは本当に重要な課題だと思う。アンケートを行ったことでかけはしを知ったという人がいたということだったが、アンケート調査は現状の把握を目的にしているものであり、アンケート調査自体が情報の流布を目的としているわけではない。ぜひ情報を広めるためにはどうすればいいのかを考えていただきたい。

➤井上委員

障がい児のケアをしていて、医療的ケア児の数が、下野市だけでなく増えている。医療が発達し家に帰ることができるお子さんは増えているが、保育園に入れない、使えるところがない、対応できる地域支援がないというのが実際のところである。

医療型の入所施設を待っている方の半分以上が在宅で待っている状況であり、それゆえ医療的ケア児が増えているという印象がある。

(4)第7期下野市障がい者福祉計画の基本的な考え方について

(事務局)

資料4に基づき報告。

➤事務局

基本理念については案の段階であるため、他にアイデアがあったら1週間以内に連絡をお願いします。

➤加藤委員

医療的ケア児の問題、生活介護事業所が市内に少ないことについて具体的な計画を入れた方がよい。

➤鱒淵委員

昔は国分寺西小学校の6年生が施設に来ることがあったが、今は地域の自治体の子どもと触れ合う機会が少なくなった。子供のころからの人権教育や福祉に関する教育ということを考えると、例えば中学校の職場体験で福祉施設を選ぶという選択肢だったり、小学校の福祉の勉強の時間に施設職員と利用者の方が教室に行き、どのような生活をしているか紹介するような機会を作ることもできる。障がい者の方と子どもが触れ合い、普通なんだと感じてもらえる機会があれば、我々としても協力していければと思う。

➤井上委員

アンケート調査や現場の感覚で、発達障がいの子どもが多いように感じる。小児科の外来を見ると、障がいを理解できていない親もいるように感じるので、障がいのある方のご家族への支援がもっとあってもいいのではないかと。

➤鈴木委員

資料でも精神障がいの方が増えているということだが、ニモ包括と言われる地域包括システムの構築であったりなど、精神障がいにも注目されてきている。病院としても地域に送り出す側の役割を担っているため、計画の中で実現できるものを考えていきたいと思う。

➤藤田委員

今年度から相談支援専門員として活動している。医療的ケア児について、長時間の訪問看護を使って対応をしているが一日の中でごく一部の支援しかできずに、親御さんが疲弊している。今回のアンケート結果を踏まえて保育所等訪問や学校訪問で訪問看護師や相談支援員を混ぜていただき、強みをお互いに生かせればよいと思った。

➤野中委員

計画の基本目標に、「特に、強度行動障害を有する方の支援ニーズ」があり、一人を受け入れるにも専門的な支援などが無いと受け入れるのが難しいという現状も理解している。障がい児のアンケートから、障がいの特性を理解し子供の可能性を伸ばすような教育の充実というニーズがあることを改めて感じた。合理的配慮が事業所での義務化となるので、学校としても在学中にできることを増やして、障がい者のサービスに繋げていきたいと思っている。

➤水本委員

基本理念について、学校教育課で立てている特別支援教育のスローガンとも目指しているところが一緒に、福祉の方と一緒に進めていけていると感じている。私は特別支援教育を担当しているが、医療的ケアの必要なお子さんやそれを支えているご家族の相談に乗ることも増えている。個別教育支援計画を基に子どもの学校での教育の支援を進めているが、そこに福祉の視点を入れていくことで、学校での支援も進むと思われる。教育支援を進める中で難しいと感じたこととして、栃木市の肢体不自由の子どもが通う支援学校に通うのに1時間位かかってしまうということがある。送迎が難しく、通うことを断念することもある。通わせてあげるにはどうしたらいいかを今後一緒に考えたい。

➤山家委員

保育園や学童でも特性を持った子どもが増えており、その理解が足りていない保護者も多くいる。放課後等デイサービスを使っている学童や保育園の方、こぼと園との連携を強く出来たらと感じた。医療的ケアも、人材やハード面でできないこともあるが、宇都宮市が進めているので、それを参考にしながら進めたい。

➤粥見委員

移動支援の充実についてお話ししたい。高齢者の方は車に乗れなくなって、車以外の移動手段を選ばなければいけないことがある。障がい者も同じで、親が高齢化すると移動手段が限られる。アンケートでもあったが、タクシー券だけではなくデマンドバスおでかけ号と選択できるようにするなど幅が広がるといいと思う。安全安心課と連携し、下野市で過ごしやすいうように改善していただきたい。

➤本田委員

先ほど粥見委員も言っていたように、肢体不自由の場合の外出が大変である。昔はお金を払い、仕事をしながらの移動支援だったが、できればそういうことを含めて安心して暮らせる街にしてもらえたらいいと思う。もう一つは、障がいを持つ家族の疲弊について。家族の支援に目を向けていただければいいなと思う。

➤早乙女委員

粥見委員の言うように、高齢者の移動について苦労されている方が多いので、障がい者についても同様であると思われる。避難行動要支援者については社会福祉課、

高齢福祉課で進めているので、意見交換をしながら作っていく。

➤大門委員

資料を拝見し、かけはしの記載があった。私も幼稚園のときにもらったが、使い方が分からず、使ったことがない。使い方等の周知が進めば使う親も増えると思う。障がいの細かいことを相談できる場所が少ないように思われる。そういったことを気軽に聞ける場所があるといい。

➤石嶋委員

今回の計画も今の状況に見合った新しい内容が含まれていていいと思う。個人情報守秘的などところがあるので難しいとは思いますが、学校で作っている支援活動計画や施設で作っている支援計画の連携や共有がずっと気になっている。過去、医療的ケアの生徒を担当していたが、そのときより今は進んでいる。行事等とても大変で、色々な状況で工夫してやってきたが、学校の対応や施設での対応は大変だと日々思っている。

➤青山委員長

皆さんの意見をふまえて、基本理念に反映できるよう検討していきたい。事務局案の基本理念に含まれる「安心して暮らせるまち」のために、移動支援の充実、家族支援の課題、かけはしの使い方の周知等検討が必要である。アンケートで教育の充実の割合が高かったこともあり「学びあい」を理念に入れてもいいと思った。事務局からあったように1週間ほど意見を募集する期間があるので、アイデアが浮かんだら事務局まで連絡をお願いします。アンケート結果をみたら、一部グラフが分かりにくいところがあるので修正してほしい。

4. その他

(事務局)

第3回下野市障がい者福祉計画策定委員会は12月18日に開催予定。計画の素案を提示する予定。

5. 閉会

議事録署名人

